

2022年度

第2回
学校関係者評価委員会報告書

於：令和5年3月
学校法人長野県理容美容学園
松本理容美容専門学校

第2回学校関係者評価委員会 報告書

日時：令和5年3月 2日（木）13：30～15：30

場所：松本理容美容専門学校 校長室

出席者：(有)ミヨシ取締役社長 三好 政明先生

(有)大和インターナショナル代表 遠山 一行先生

小原校長・吉川事務局長・小口教務主任・桐山広報企画部長

○小原校長より

新型コロナウイルス感染状況について、1月増加したが理容科美容科国家試験・ビューティビジネス科認定試験ともに、全員無事受験することができた。コロナ感染予防対策として、式の来賓参加やマスクの件などあるが、学校としてコロナ感染状況をふまえ方策を変化させていきたい。

委員の皆さんから、客観的な意見をいただき、前進することが出来ている。

今後もより一層ステップアップしていきたいので、忌憚ないご意見を出して頂きたい。

【議題】

1. 令和4年度第2回自己評価委員会報告

令和4年度自己評価・自己点検中間報告について（資料1）

令和4年度報告として、教育理念の3項目・学校運営の3項目・教育活動の6項目・学修成果の2項目・学生支援6項目・教育環境の1項目・学生募集と受け入れ2項目・法令等の遵守1項目について、評価4について継続的に向上した部分を報告、今後の課題・方策を報告した。評価4を今まで以上により内容の濃いものにしていく必要がある。新型コロナウイルスの影響がある中、先生方の努力により、コロナ感染者を出さずにいてくれる事を評価している。

(基準1) 総括 「教育とは教える者と教えられる者との関わりの中で、人を変える営みである」技術教育機関である本学園は、人格・技術共に豊かな変貌を期待できる全人的な教育を目指しています。

教える者・教えられる者ともに今よりも一歩前進を心掛け、未来に繋がる確かな技術を、創造的に先取りできる人材育成を似なっ、教育理念とします。

- ・令和4年度を振り返り、コロナ禍3年目となったが感染対策と学修方法の両立が日常となり、学校行事も概ね計画通り進めることができた。
- ・今後、新任教員の募集を進めると共に教員育成についても課題としていく。
- ・コロナ禍により、中止、縮小を余儀なくされたキッセイ文化ホールでのヘアショーを、保護者や高校生を招待して開催することができた。
- ・理美容甲子園地区大会、全国大会は、縮小された規模ではあるが計画通りに実施された。（ヘアデッサン部門で1名全国大会へ進出した）
- ・エステティックコンテストは地方大会、全国大会は行われたが本校の参加希望者はいなかった。
- ・令和5年度開催を視野に入れて Beauty Collection は長野校、松本校との合同開催の準備を進めていく。

学校関係者評価委員コメント 問題なし。適正に行われている。

今後の改善方策

- ・教育理念の重要さを改めて見直し、めざす職業の多様化に合わせて修正をし、向上していきたい。
- ・学習指導のみでなく、生活習慣の大切さを引き続き伝えていく。

(基準2)

- ・令和3年7月26日から令和5年1月23日までの感染者届の総数82名
- ・2022年11月～2023年1月(第8波)40名 感染者の生徒に重症者はいない状況で、規定に沿った感染対策を取り入れて、必要に応じて午前授業、クラス閉鎖を行った。
- ・令和5年度の授業計画、行事計画、予算計画は、通常通りの計画として推進する。
- ・現状、不十分ではあるものの通信環境、通信機器を取り入れることで、オンライン授業を取り入れる設備は整っている。ただし、今後の危機管理の観点、社会情勢の変化、生徒のニーズに応じていくためには、さらなる情報システム環境の改善が求められている。
- ・令和7年度生徒募集におけるオンライン出願実施に向けて、県内高校への周知と共に要望を取り入れながら進めていく。

学校関係者評価委員コメント 遠山委員より

- ・オンラインにより技術低下したとかはあるのか?→問題ない。各担任からの評価をきちんと実施できている。
→今後の課題として、技術の細かい部分の指導。仕上がり+行程の両方がチェックできるようになるとより良い。
→欠席者に対して実施するため、少人数になり逆に通常より細かい部分も見れる利点もある。

学校関係者評価委員コメント 三好委員より

コロナ対策は本当に大変だと思うが、きちんと学校として対応しているので、問題ない。

今後の改善方策

- ・コロナ欠席者に対する方策として、リモートでの実技は難しい部分があるが、今年度実施してみて、方法工夫次第で可能だと感じている。
- ・今後も在校生満足度に重点をおき、魅力ある学校づくりに力を入れていく。

(基準3) 令和3年度 職業実践課程フォローアップ申請に伴う実習内容の充実を、「教育課程編成委員」

「関係者評価委員」からの提言をもとに推進させる。

- ・令和4年度より美容科2年生選択授業の内容を変更し「メイク・カット・アップ・まつエク」「ネイル・カット・ブライダル・カラー」としたが、令和5年度も引き続き教科は同様として、内容を改善しながら進めていく。
- ・令和5年度 美容科2年生選択授業の教科として
前期30時間:「メイク、ヘアセット、カット、まつ毛エクステンション」
後期30時間:「ネイル、カット、ブライダル、カラー」
- ・令和5年度の理美容科実務実習は、2年生5月に3日間、1年生1月に3日間。通常の見習いとして実施する。
- ・各学期末に生徒への授業アンケート調査を実施すると共に、教職員による自己評価を実施することで、今年度の反省と次年度への目標設定の手立てとしている。
- ・8月松本校にて両校交流研修会(長野校リモート参加)
宮澤悠維先生による「学級経営の心得 生徒との向き合い方」
理美容科 資生堂講師による「デジタルパーマ講習会」
- ・新任教員の募集について、学園との協力を仰ぎながら個々の卒業生へも働きかける。
- ・新任教員の育成機会を好機と捉え、教職員全員が協力して関わることで、教職員組織全般に至る指導力の向上と統一を同時進行させていく。
- ・令和4年度理美容科資格試験の結果
①1年生ヘアカラー検定シングルスター 95名受験 全員合格 100%
②2年生サービス接客検定3級 98名受験 86名合格 合格率87.8%
③1年生JMAメイクアップ2級、3級 68名受験 66名合格 合格率95.7%
④2年生社会福祉準福祉理美容士 99名受験 全合格 100%
⑤2年生ジェルネイル検定 23名受験 19名合格 合格率82.6%
⑥1年生INAネイル検定 87名受験 83名合格 合格率95%
⑦1年生パーソナルカラー検定 74名受験 全員合格 100%

学校関係者評価委員コメント 遠山委員より

- ・サービス検定という内容か?→理論+実技 接客に対する具体的な問題傾向である。
→サロンの新人教育の参考にしていきたい。

学校関係者評価委員コメント 三好委員より

・質の高い教育を生徒に提供するためには、人材教育は必須である。大変だと思うが頑張ってもらいたい。

今後の改善方策

- ・選択授業 2つ選択できる形式の中、現段階はカットを2枠にしているが、生徒の様子を見ているとヘアカラーに興味が多い傾向のため、来年度内容を検討していく予定である。
- ・教職員のスキル向上のため、3月・4月に手合わせ。国家試験課題のタイムトライ実施予定である
→質の高い教育活動をするためには、教職員自身が常にスキルアップしていく必要がある。
→教職員募集に力を入れている。

(基準4)

○令和3年度～令和4年度 ビューティビジネス科 各種資格試験の結果

- ・JNECネイリスト検定3級 13名受験 合格率100%
- ・日本アロマ環境協会アロマセラピー検定1級 13名受験 合格率100%
- ・JMAメイクアップ検定3級・2級 5名受験 合格率100%
- ・AEA上級認定エステティシャン 11名受験 合格率100%
- ・秘書検定2級 11名受験 合格率58%
- ・日本ブライダル文化振興協会 ブライダルコーディネーター検定3級 受験者12名 合格率50%
- ・日本エステティック協会A j e s t h e認定上級エステティシャン 受験者11名 合格率100%

○令和5年2月10日 現在 休学者7名 退学者3名

- ・休学・1年生美容科4名、理容科1名、BB科1名 ・2年生美容科1名
- ・退学・1年生美容科2名

休学退学理由には、経済面、精神面、友人面、学力面、進路面等1面の対策では解消できない複雑さがあり、保護者への説明、協力等も試みているが結果に繋がらない。

「本人の意向」に対して、異議を唱える保護者がほとんどいない。

学校関係者評価委員コメント 遠山委員より

・休学・退学者について、心の教育の大切さを感じている。受け入れるサロン側としても、配慮をより一層していかなくては。指導の難しさを感じている。

学校関係者評価委員コメント 三好委員より

・保護者の在り方も変化し難しい時代である。大変だと思うが頑張ってもらいたい。

中退学者はその後どうしているのか？→バイトやひきこもり・精神病治療が多い。

今後の改善方策

- ・中退学の理由として、経済的に大変な生徒が多い。家庭環境も複雑化してきている。
コロナの影響により規律を正していく難しさを感じている。今後、今まで以上に生徒に寄り添い、中退学者を出さない努力をしていく。
- ・人間性・教育の質の向上に力を入れていきたい。
- ・面談等行っているが、ぎりぎりまで表面化してこない生徒が多くなってきているため、引き続き個人面談等に力を入れていき、学校全体でサポートしていく。

(基準5) **総括** 新型コロナウイルス感染防止対策として示された、文部科学省「学びの保証」へのガイドラインに沿って修学支援を推進した。

- ・令和4年度「給付型修学支援」対象者：1年生25名 2年生21名－20.4%
(奨学金対象者 1年生36名 2年生33名－30.6%)
- ・アフターコロナの観点から、国、県からの感染対策ガイドラインに沿って健康管理を継続する。
- ・令和5年度 ビューティコレクションを見据えて、在校生の仲間意識を高めていく。
- ・「理美容甲子園」、「エステティックコンテスト」への参加準備を進めている。
- ・令和5年度予算計画からの状況を踏まえ、教材費高騰の現状を丁寧に周知するため、令和4年12月に保護者宛てに

教材費高騰の理解を求める旨、通知を行っている。今後も、現状報告を行っていく。

- ・コロナ禍により自粛傾向であったが、サロンで活躍している卒業生の情報収集に努め、在校生への技術セミナーやオープンキャンパスへも協力を要請する。
- ・ヘアメイクアーティスト希望の生徒が増えてきたため、3月1日資生堂SABFA講師によるセミナー開催予定。同時に、TOKON協力による就職セミナー（30サロン）開催予定。
1サロンでも多くのサロンとの機会を設け、就職活動の意識を高める。
- ・新2年生対象の就職活動説明会実施。（2月2日）
- ・本寮について古くなってきているため、各設備修繕費を予算化し、不備のないよう環境を整えている。（エアコン・給湯器等）

学校関係者評価委員コメント 遠山委員より

- ・ヘアメイクアーティストの見せ方など、時代の変化を感じている。サロン側も時代の流れを敏感に読み取っていかなくては。

学校関係者評価委員コメント 三好委員より

- ・コロナ禍で、やれない事が多いが、工夫をして思い出を作っておくことは大事である。
学校での経験が、今後の人生において必ず良い方向につながる。

今後の改善方策

- ・メイクセミナー+就職ガイダンスは、新しい取り組みだったが、仕事としてのやりがい・厳しさをしっかりと伝えてもらい、生徒たちにとって就職活動に対する意識向上できた良い機会になった。
- ・今後も在校生満足度に重点をおき、委員の先生方のご意見を参考に、魅力ある学校づくりに力を入れていく。

(基準6)

- ・令和5年度実施計画
5月2年生サロン実務実習・5月、6月就職ガイダンス・7月ヘアフェスティバル・8月BB科パルコイベント・9月ビューティコレクション・10月1年生修学旅行（大阪USJ）・1月1年生サロン実務実習
- ・コロナ対策を実施しながら、各行事を工夫して行うことができている。
- ・リモート形式・対面形式両方で対応できる資料を作成した。今後活用していきたい。

学校関係者評価委員コメント 適切に行われている。

今後の改善方策

- ・学生たちの満足度を上げるため、実施していきたい。やり方を工夫し、在校生の満足度を上げることに重点をおき、実行していきたい。

(基準7) 総括：継続し学生募集に力をいれていく。

令和5年度の入学生の確保は、コロナ禍も落ち着き、昨年度よりも県外流出が懸念された。しかしながら、説明会において本校の特色となる国家試験合格率、資格試験合格率、就職率は100%を掲げ、地元での伝統校としての強みをアピールしたことにより、昨年度よりは若干減少したが概ね例年通りの学生確保が出来た。長野校新校舎の影響も大きいと感じている。
理容科、ビューティビジネス科への職業理解と入学動機を喚起して、入学生の確保に努める。特に理容科においては、理容支援サロンとの協力体制を改めて強固にしていく。

- ・生徒募集においてネット出願の受け入れ態勢の準備を令和6年度募集までに構築する準備開始している。
- ・令和5年度より実施する特待生・指定校生の入試制度変更内容について高校廻りを実施する準備を開始している。
- ・今まで以上に高校生獲得に向けて、県外流出を防ぐ手立てを強化していく必要がある。その方策として、マイナビ・リクナビ等の進学ネット内容を深めていく取り組みを始めている。また、本学園希望以外の美容系希望者に対して、DMチラシを発送した。（3月上旬）
- ・2023年度9月実施予定のビュー・コレ2023の打ち合わせ実施し、具体的な予算化・チラシ制作準備開始している。両校職員に対して打ち合わせ資料準備し、3月23日学園研修時に1回目の打ち合わせを行う。
ビックハット3/13実施予定。

学校関係者評価委員コメント 遠山委員より

- ・学生募集について、少子化であるため、大変な部分もあると思うが、前向きに努力して頂き安心している。素晴らしい学校である。入口から卒業まで。また、卒業後のサポート体制が整っている学校である。特色を活かして、引き続き頑張ってもらいたい。
- マツビの魅力として、先生方と生徒の距離感や、チームワークの良さだと感じているので、もっとその部分が伝わるパンフレットやチラシを作成していくべきである。

学校関係者評価委員コメント 三好委員より

- ・学生募集の難しさは十分理解している。マツビはたくさんの魅力ある地域に誇れる学校なので、自信をもって広報活動して欲しい。

今後の改善方法

- ・入学生から理美容師を目指したきっかけとして、担当してもらった理美容師に憧れて目指していることが多い学校支援サロンとしても学生募集に協力して欲しい。
- ・学校の特色をきちんと伝えられるような広報活動をしていく。委員の先生方から頂いた意見を参考にし、前向きな方策を検討していく。

(基準8) 継続して、問題なく実施できている。

学校関係者評価委員コメント 適切に行われている。

(基準9) 継続して、問題なく実施できている。

学校関係者評価委員コメント 適切に行われている。

(基準10) 継続して、問題なく実施できている。

学校関係者評価委員コメント 適切に行われている。

2. 重点目標について (別紙1 参照)

(1) 令和4年度重点目標実施報告

① 各行事における生徒達成感をもたせる

下半期の反省

- ・コロナ禍3年目となるが、感染者への対応、保護者連絡、授業計画、行事計画等感染状況に合わせた対策を行うことで、概ね計画の実施することができた。
- ・コンテスト、ヘアフェスティバル、ヘアショーについては、各選手、実行委員や生徒会による協力体制を図り、成功させることができた。
- ・オープンキャンパスにおけるクラス対応も、クラスの個性を発揮してオープンキャンパス来校者からの高評価が得られている。

② 生徒指導の充実

下半期の反省

- ・休学者、退学者の現状を、教職員個々が真摯に向き合い、良かれと思われる対策を講じていく。大きな変革を望むのではなく、日々における細事の習慣化を見直すことが大きく改善させる手立てとなる。
- ・今年度の反省と共に、生徒アンケート、教職員自己評価、自己評価の集計を令和5年度の目標設定における客観的な根拠として取り扱う。

③ 学生募集から就職指導の一貫指導

下半期の反省

- ・担任の先生方と協力をして就職内定率を上げるために、就職部として情報を共有することが出来、スムーズに就職指導することが出来た。まだ2名就職未定の生徒が居るので引き続き、面談をしながら内定獲得につなげていく。
- ・ヘアメイクアーティスト希望の生徒が増えてきたため、新しい取り組みとして、3月1日に資生堂SABFA講師によるセミナー開催予定。同時に、TOKON協力による就職セミナー(30サロン)開催予定。
1サロンでも多くのサロンとの機会を設け、就職活動の意識を高める。

- ・新2年生対象の就職活動説明会実施（2月2日）し、早い段階で就職に対する意識を高める指導を担当と協力し、就活をすすめている。

学校関係者評価委員コメント 遠山委員より

- ・重点目標に対して、考え・方策が変化していることが大事である。

今後の改善方策

- ・昨年度より質の高い学校となるよう、全職員が共通意識のもと、1つ1つを大切に考え、具体的方策を協議しながらすすめていく。

(2) 令和5年度実施目標（別紙2参照）

① アフターコロナを見据えた、新たな日常の構築

- ・コロナ禍で停滞した雰囲気、前向きに変えていく
- ・コロナ禍3年間の高校生活を過ごした、新入生の意見や感想に耳を傾ける。
- ・内規に沿った生活指導や学習指導の共通理解を再確認して、継続指導を行うこと、変更事項が必要なことを精査して「校長主任会への提案を行う」

② 生徒指導の充実

- ・多様化する生徒個々の思いに向き合うと共に、教職員全員がチームとなって情報共有を行いながら、生徒指導の充実を図る。
- ・個々の教師における、得意分野と苦手分野に理解を深めて、協力し合う組織を目指す。

③ 学生募集から就職指導の一貫指導

- ・令和5年度入学生希望者を対象とした「オンライン出願」への整備と周知を進める。
- ・就職指導を生活指導の延長ととらえ、就職部からの情報収集を行い、クラス担任が主体となって内定まで指導を続ける。

学校関係者評価委員コメント 三好委員より

- ・理美容業界・ディーラー・学校が上手く、協力し合い稼働していきたい。時代に合わせた教育。みんなで考え、実行していくしかない。

学校関係者評価委員コメント 遠山委員より

- ・継続していくことが大切である。地元サロンの協力体制がある学校。生徒との良い距離感。チームワーク力の高さ。大きな特色になるのでは。

今後の改善方策

- ・昨年度より質の高い学校となるよう、全職員が共通意識のもと、1つ1つを大切に考え、具体的方策を協議しながらすすめていく。
- ・お客様に寄り添う事のできる人間力の高い人材育成に力を入れていく。

最終まとめ

- ・やるべきことを一つずつ丁寧に頑張っていってほしい。協力は惜しまない。

3. 次回予定

令和5年度第1回学校関係者評価委員会 令和5年8月8日（火） 13:30～